

水道ビジョンで示した実現方策の検証

評価の種類

評価の種類		意味
評価	○	目標を達成しているもの
	△	目標は達成していないものの、実施中・検討中のもの
	×	実施・検討していないもの

優先度の設定

レベル 1	○ 早急に解決すべき課題 緊急度：事業を運営する上で支障を来しており、早急に解決しなければならないもの 重要度：安全で安定した水の供給を脅かしており、水道事業を運営していく上で解決しなければならないもの 難易度：財政的及び物理的に今後5年程度以内に達成可能と判断されるもの 業務指標値：同規模事業体と比較して著しく劣っており改善が必要なもの
レベル 2	○ 目標年度までに解決すべき課題 緊急度：事業を運営する上で支障を来している、あるいは来すおそれがあり、できるだけ早く解決すべきもの 重要度：安全で安定した水の供給を脅かしている、あるいは脅かすおそれがあり、水道事業を運営していく上で解決すべきもの 難易度：財政的及び物理的に今後10年程度以内に達成可能と判断されるもの 業務指標値：同規模事業体と比較して劣っており改善すべきもの
レベル 3	○ 最終的な将来像にむけて取り組む課題 緊急度：事業を運営する上で支障を来すおそれがあり、将来的に解決が望まれるもの 重要度：安全で安定した水の供給を脅かすおそれがあり、水道事業を運営していく上で解決することが望ましいもの 難易度：財政的及び物理的に今後10年程度以内に達成することが困難と判断されるもの 業務指標値：同規模事業体と比較して劣っており改善が望まれるもの、あるいは同等以上であっても更なる向上が望まれるもの

検証 基本目標：【持続】いつまでもお客さまの近くにありつづける水道							
評価	施策目標	具体的施策	事業概要	優先度レベル	評価	根拠	担当
○	①水源の維持と活用	自己水源の水量維持	揚水量調査の実施、適正な取水による水源の延命化を図る。 必要に応じて自己水源を確保する。	2	○	新第1水源地整備による水源の確保（取水開始R4.6）	土木課
		県営水道の計画的活用	適量を計画的に受水する。		○	水需要の動向、自己水源の状況、事業財政への影響等を踏まえ、受水計画を必要に応じて見直し、計画的な受水を行っている。	施設管理課

検 証	基本目標：【持続】いつまでもお客さまの近くにありつづける水道						
評 価	施策目標	具体的施策	事業概要	優先度 レベル	評価	根 拠	担 当
○	②老朽施設・ 設備の更新	老朽構造物 設備の更新 整備	アセットマネジメン ト（AM）計画 に基づき計画的に 更新する。 AM計画の水準向 上を図る。	2	○	適正に保守しながら計画的に更新 を進めており、黒田浄水場膜ろ過 装置、上戸田浄水場監視装置の更 新を実施した。	施設管理課
		老朽管路の 更新整備	重要度の高い老朽 管を優先して計画 的に更新する。	2	○	更新基準年数を実使用年数に設定 し、重要な給水施設につながる管 路の更新を実施している。また、 漏水頻度の高い地区の塩ビ管の更 新を実施している。 本市の基幹管路の耐震適合率は、 国の2028年度末目標値60%以上 に対して、62.5%。	土木課
△	③事業運営の 効率化	職員構成の 適正化	職務遂行能力の向 上と技術の継承を 図る。	3 2	△	若手技術職員の採用には至ってい ないものの、必要最小限の人員体 制のもと、講習会への参加やOJTを 通じて職員の能力向上に取り組ん でいる。	施設管理課 土木課
		外部委託の 適正化	事業の効率化を目 的とした外部委託 の在り方を検討す る。	3	△	以前から実施している外部委託に 加え、維持管理業務等について、 他市との共同委託や複数業務を一 括して委託する包括的民間委託の 導入を協議したが、費用対効果を 明確に見込むことができず、導入 には至っていない。今後も事業の 効率化に向けて、継続的に検討し ていく。	経営管理課 施設管理課
		事業効率の 向上	県や近隣市町との 連携を図り、広域 的視点での事業の 効率化を検討する。	3	○	広域連携による、水道メーターの 共同購入を行い、事業の効率化を 図っている。今後は、新たな広域 連携について、検討していく。	施設管理課
○	④財務体質の 強化	財政収支の 改善	コスト意識の高揚 と施設の効率的運 用を図るとともに、 適正な料金水準を 検討する。	2	△	経費の削減に取り組んでいるが、 厳しい経営状況が続いており、今 後も適正な料金水準について、継 続的に検討していく。	経営管理課
		料金体系の 適正化	お客さまに公正妥 当であると御理解 いただける料金体 系について検討す る。	1	○	令和5年1月に基本水量を0㎡に する料金改定を実施している。	経営管理課
○	⑤お客さまサ ービスの向 上	料金収納方 法の改善	お客さまの利便性 の向上と料金収納 率の維持・向上に 努める。	2	△	新たな収納方法について、検討は しているが、導入には至っていな い。また、収納率については、料 金回収を適正に実施し、維持・向 上に努めている。	経営管理課
		お客さまと の接遇向上	お客さまへの対応 及びサービスの充 実に努める。	2	○	さらなるサービスの充実に向け、 継続的に実施中。	経営管理課
		広報・広聴 活動の充実	広報紙やホーム ページの内容を充実 させる。	2	○	広報やホームページでの情報発信 を積極的に行い、施設見学等も継 続して実施している。また、使用 開始・中止のインターネットによ る受付を新たに導入した。	経営管理課 施設管理課

検 証 基本目標：【持続】いつまでもお客さまの近くにありつづける水道							
評 価	施策目標	具体的施策	事業概要	優先度 レベル	評価	根 拠	担当
△	⑥環境負荷の 低減	省電力・省 エネルギー の推進	加圧設備その他機 器を省電力・省エ ネ仕様に改善する。	3	△	機械設備の更新に合わせ省電力・ 省エネルギー化を図っている。	施設管理課
		再生可能エ ネルギーの 利用促進	利用促進を前向き に検討する。	3	△	既存設備を利用した再生可能エネ ルギーの利用促進及び導入につい て、今後も継続的に検討を行う。	施設管理課
○	⑦水資源の有 効活用	漏水防止対 策の推進	漏水を早期に発見 し修復する。	2	○	遠隔監視装置による配水量の監視 を行い、効率的な調査を実施する ことで、漏水の早期発見及び修復 に努めている。	施設管理課
○	⑧資源循環の 推進	建設副産物 のリサイクル 利用推進	再資源化の徹底と 浄水汚泥の有効利 用方法を検討する。	2	○	水道工事に伴う建設副産物の処理 については、すべての工事におい て、適正に再資源化に取り組んで いる。	土木課

検 証 基本目標：【安全】いつでも安心して飲める、安全で信頼される水道							
評 価	施策目標	具体的施策	事業概要	優先度 レベル	評価	根 拠	担当
○	①浄水施設の 整備・充実	遊離炭酸の 除去と腐食 性の改善	エアレーションに よる処理を継続す る。	2	○	継続的にエアレーション処理を実 施している。	施設管理課
○	②給水施設の 衛生管理	貯水槽水道 の衛生管理 の向上	設置者等へ指導・ 助言を継続する。 直結給水の拡大を 検討する。	2	○	広報、ホームページ等を活用し、 継続的に設置者への啓発を実施し ている。	施設管理課
		鉛製給水管 の取替え	管路更新に合わせ て取り替える。	1	△	継続的に実施中であり、施工困難 箇所についても建替工事等に合わ せて実施している。	施設管理課
○	③おいしい水 の供給	残留塩素濃 度の適正管 理	残留塩素濃度を最 大 0.4mg/L以下に 低減する。	2	○	水道法で定められた残留塩素濃度 については、給水栓で毎日検査を 実施し、下限値である0.1mg/L以上 を確保して、安全な水道水を維持 するとともに、おいしい水を目指 して0.4mg/L前後で、適正な管理に 努めている。 第6水源で検出されたPFOS・PFOA については、国の水質基準値であ る50ng/Lを超過したため取水を停 止している。一方、上戸田浄水場 の給水栓における検査結果は 50ng/L以下であり、PFOS・PFOAに 関する水道水の安全性を確認して いる。取水を停止している第6水 源については、引き続き監視を行 い、安全で良質な水道水の安定供 給に努めている。	施設管理課

検 証		基本目標：【強靱】災害に強く、たくましい水道					
評 価	施策目標	具体的施策	事業概要	優先度 レベル	評価	根 拠	担当
△	①施設の効率的整備・活用	配水池貯留能力の適正化	貯留時間と配水量の調整を行い、困難な場合は貯留時間が不足する配水池の容量を増設及び新設する。	3	△	現状の水需要を踏まえ、貯留容量の確保に向けて、貯留容量と配水量のバランスを図りながら、貯留時間の平準化に努めている。	施設管理課 土木課
○	②耐震化の推進	基幹構造物の耐震性確保	耐震化計画を作成する。 耐震診断調査と必要な耐震補強工事を実施する。	3	△	浄水場100%、配水池96.3% 耐震化率は高い水準。小規模な配水池については、耐震化の必要性も含め検討する。	土木課
		基幹管路の耐震性確保	耐震化計画を策定する。 耐震性の低い管路を優先的に更新する。 重要給水施設への管路を優先的に更新する。	1	○	重要な給水施設につながる管路の更新を実施している。本市の基幹管路の耐震適合率は、国の2028年度末目標値60%以上に対して、62.5%。	土木課
○	③危機管理体制の充実	危機管理対策マニュアルの充実	継続的に内容を刷新する。	1	○	地域防災計画等との整合を図り、継続的に内容の見直しを行っている。	施設管理課
		緊急時応援協力体制の充実	他市町や他団体との緊急時応援協力体制を強化する。	1	○	「兵庫県水道災害相互応援協定」に基づき、訓練への参加、他市町との協力体制の強化を継続的に実施している。	施設管理課
		災害時給水拠点の充実	耐震性貯水槽の新設及び配水池緊急遮断弁の設置を検討する。	3	△	耐震性貯水槽を2箇所設置し、給水拠点に指定しているが、今後も新たな給水拠点の指定について、継続的に検討していく。	施設管理課 土木課
		配水ネットワーク体制の充実	西脇黒田庄間給水連絡管の整備を検討する。	3	△	今後も継続的に検討していく。	土木課
		応急給水機器の適正配備	応急給水機器の保有数を適正に維持する。	3	○	給水車、給水袋等について定期的に点検し、保有数量の充実と品質の確保に努めている。	施設管理課